

卒業研究中間報告

テーマ 生活の豊かさを考える

梅澤ゼミ4年 酒井 駿

1. 研究の動機

大学4年になり、就職活動を始めたことで「何のために働くのか」について考えることが増えた。そんな中、今年2月に日本列島を記録的な大雪が襲い、都会では帰宅困難者、地方では多くの地域が孤立集落となったことが問題となった。私の地元である山梨県も酷い雪で、雪かきをしに実家に帰ろうとしたが、電車が止まっていて助けに行くことさえ出来なかった。現状はどうなっているのかが気になったが、ニュースではしばらく山梨県の報道はされなかった。理由としては単純で、取材に行く手段がなかったのだ。現場ではスーパー、コンビニ等で品切れが相次ぎ閉店。当然食料を届けることもできないという状況だった。そんな状況を見て私は、お金を持っていても災害時には役に立たないのではと考えるようになった。お金さえあれば本当に豊かなのだろうか。

2. 研究の背景

現代は「暮らしく労働」になっているように思える。昔は畑を耕し、自分達の食べる分の野菜を作り余ったら近所に分けて、雨戸が壊れたら自分達で直してと、労働したらその分だけその糧がダイレクトに返ってきていた。

それに比べて今は働くことが大きなシステムの一部になっているのではないだろうか。比較的給料の高い都会へ働きに出て、生活を豊かにするはずが、肉体的にも精神的にもボロボロになっていく。一番悪いケースでいうと、自殺などにつながっていく。さらにおかしいことは、人身事故で電車が遅延すると不満を漏らすことだ。人が一人亡くなっているにも関わらず、自分が定時に会社に来ることの方が大事になっている。まさに、「都会で消費される人材」である。私はこの点に疑問、ズレを感じた。都会に働きに出ることによって地方には人がいなくなり、結果、高齢社会（極点社会）に拍車をかけている。地方に人がいなくなれば次に衰退するのは都心である。現代人はそれに気づかず、生活している人が多い様に思える。

夕張市の高台住宅地では、行政がお金をかけて維持しているにも関わらず、空き地ばかり。しかしこの光景はこれからの日本の姿である。

3. これからの日本

- ・日本中が超高齢化する
- ・超高齢化で衰退が懸念される場所は山村だけではない。都市部含め、日本中にある。

4. 目的・意義

目的：「お金を稼ぐ＝生活が豊か」を今一度考える

意義：「極点社会の危険性を広める」

5. 研究方法

(1) 先行研究の検討。(テーマに関連する論文)

・テーマに関連する書籍(しなやかな日本列島のつくりかた・里山資本主義・神山 PJ 等)

(2) 極点社会に関する書籍、現在取られている対策の研究

(3) 山梨県内での田舎暮らしを始めた事例研究

6. 研究計画案

2014 年

7 月～8 月：先行研究

9 月～10 月：論文まとめ

11 月～12 月：SRC 発表準備

2015 年

1 月：完成

参考文献

藻谷 浩介『しなやかな日本列島のつくりかた』株式会社新潮社 2014

総務省 『山梨県山梨市「空き家バンク制度」の実践』

http://www.soumu.go.jp/main_content/000063262.pdf